



瀬谷小だより

No. 11

3月号

平成31年2月28日
横浜市立瀬谷小学校

繋ぐもの

校長 倉岡 ナオミ

各地から梅の花の便りも届き、鶯の声も聞かれるようになりました。三寒四温を繰り返しながら、春へと近づいています。早いもので、今年度も3月を残すのみとなりました。インフルエンザや胃腸炎に悩まされながらも、何とか無事に年度末を迎えることができそうです。これも、保護者、地域の皆様の温かい御支援、御協力があればこそのこと、心より御礼申し上げます。

先日は今年度最後の学校運営協議会が開かれ、学校評価をもとにこの一年を振り返るとともに、来年度に向けての確認をさせていただきました。学校運営について、御理解とおおむね良い評価をいただき安心しました。また、ブラスバンドの演奏を聴いていただき、子供たちの素晴らしい成長を喜んでいただくことができました。この場をお借りして御礼申し上げます。

4月に着任してより、いろいろな場面で子供たちのきらきら輝く素晴らしい姿、努力を見てきました。先日、「タッチの会」が行われました。6年生から5年生にバトンを受け渡す、今までの活動や思いを繋ぐ機会でした。バディに自分の言葉で一生懸命伝える6年生、メモを取りながら、聞き漏らすまいと真剣な表情で受け止める5年生、そして、市体育大会演技の Let's Dance with YOKOHAMA とソーラン節を真剣に踊る5、6年生の姿に涙した職員も多かったです。単に形式的に「こんなことをしてきました」と伝えるのではなく、自分自身が今まで一生懸命に取り組んできたからこそ、伝えたい思いが湧き出てきて言葉や態度になって表れるのだと思います。6年生の思いがこうした活動を通して、今年も5年生に受け継がれていきました。この姿は5、6年生だけのものではなく、いろいろな場を通して他の学年にも伝わり、学校全体の雰囲気を作っていくものだと考えています。また、職員もこうありたいという思いで子供たちと向き合い、これまで支援してきたからこそ、その成長した姿に喜びと感動の涙が流せるのだと思うのです。瀬谷小学校として育てたい子供像を共有し、ともに悩み、知恵を出し、励まし合いながら進んできた風土を、これからは繋ぎたいと思いました。

「心きらきらSYS」が、校長として目指してきた姿です。どのような心をもつことが輝く姿なのかをいろいろな機会をとらえて伝えてきたつもりですが、まだまだ足りないところもあると思います。教育は一朝一夕にできるものでも、すぐに効果が表れるものでもありません。でも諦めることなく、地道に小さな努力を重ねることが、やがて大きな成果に結びつくと思っています。今まで大切にしてきたことを繋ぎつつ、新しいことにも挑戦したり、新しい方法を取り入れたりしながら、これからも進んでいこうと思います。

今年度の御理解、御協力に改めて感謝申し上げますとともに、新しい体制での新年度も今まで同様に温かい御支援をいただきますようお願いいたします。